

公立大学法人札幌市立大学平成 22 事業年度評価案に対する意見の申立て及びその対応

申立ての内容	申立てへの対応
<p>教育研究等の質の向上に関する項目</p> <p>【小項目 49 番関係】</p> <p>・履修科目単位数の平均を求めたのは、修得単位数の全体傾向を分析するためである。キャップ制については履修登録単位数の上限を定めるものと認識しており、「履修科目数の平均」と混同してはいない。</p> <p>取得単位が多い学生には、成績優秀もしくは再履修科目取得につき単位取得上限を緩和されている者や編入学生が含まれていることから、今後のデータ提示に際しては、より詳細に分類したものをお示ししたい。</p> <p>また、GPAについては、成績優秀者の選出などに活用している旨、ヒアリングの際に追加説明しているが、その点を評価いただいていないかのような記載となっており、評価内容の再検討を求めるものである。</p> <p>【小項目 96 番関係】</p> <p>・「連携プロジェクト演習」について、成果がないとの評価であるが、研究内容を商品等の成果とするには研究、開発、実施といった段階を踏んでいく必要がある。大学院開設初年度においては、研究の緒についた段階であり、単年度で直ちに具体的な成果を出すのは困難であることを理解いただきたい。</p>	<p>【対応】</p> <p>・意見を踏まえ、下記のとおり修正する。 点数評価は「Ⅱ」評価のとおりとする。 評価結果 7 ページ下から 11 行目から ○キャップ制を「履修科目数の平均」と混同している<u>としか思えない記述があった。</u></p> <p>【理由】</p> <p>・事実関係に即した修正。 報告書には「修得単位数の平均はどのセメスターでも 23 単位以内に収まっている」と書かれており、外形的評価の枠組みでは混同している<u>としか思えない記述である。</u> 「GPAの活用及び成績評価制度について、平成 23 年度中に検討し、一定の結論を得る」とされており、22 年度中には結論が出なかったことを自ら認めている。成績評価についてはデータが出されたが、評価法が組織的に検討されたとは思えない結果が一部に含まれていたため、同様に 22 年度中には結論が出されていなかったと判断される。</p> <p>【対応】</p> <p>・原案のとおりとする。</p> <p>【理由】</p> <p>・当該年度計画は、「産業界等との連携を深める」と「大学院の設置により、新たな解決策の創出に向けた先端的かつ実践的な研究を推進し、複合的な地域課題の解決に積極的に取り組む」で構成されているが、いずれについても、年度計画を十分に実施していないと判断される。 なお、左記の申立内容は、先端的かつ実践的な研究等の補足説明はなく、年度計画自体が適切であったのか疑問が生じる。</p>

申立ての内容	申立てへの対応
<p>【小項目 97 番関係】</p> <p>・実績報告に記載しているとおおり、計画に記載された任意回答のアンケート調査に替えて、全教員に提出義務のある「研究成果報告書」による情報収集を実施した。情報収集方法の変更により、当初の目的に適う情報を、より広く、効果的に収集することができたことから、アンケート調査を実施していないことを理由とした評価の変更について再検討を求めるものである。</p>	<p>【対応】</p> <p>・意見を踏まえ、下記のとおり修正する。 点数評価は「Ⅱ」評価のとおりとする。 評価結果 7 ページ下から 3 行目 ○研究成果の教育課程・講義へのフィードバックに関するアンケート調査の<u>代替として研究報告書の様式を変更したことが明示的に示されていない。</u></p> <p>【理由】</p> <p>・事実関係に即した修正。 事例集を作成する年度計画に対して、未作成であることで、年度計画を十分には実施していないと判断される。 フィードバックに関するアンケート調査を研究成果報告書内で実施することとしたことについては、明確に記載すべきである。 「情報収集を行った」などのあいまいな表現は誤解を招く。 また、研究成果報告書による調査結果を資料として添付し、評価委員会にわかりやすく報告する必要がある。</p>

申立ての内容	申立てへの対応
<p>【小項目 102 番関係】</p> <p>・「年度計画にある『前年度の調査』が行われていなかったという事実が明らかになった」との指摘を受けたが、前年度の実績報告にて報告済みである。年度計画の文言の修正をしておらず不適切ではあったが、平成21年度の実績について、平成22年度の評価の対象とすることについては、再考することを検討いただきたい。</p> <p>「サテライトキャンパスの利用が、産学連携の実を示すものとはなっていない」との指摘であるが、産学連携の実績を生むためには、相互理解及び信頼関係の構築が必要であり、時間がかかることをご理解いただきたい。例えば、本学教員が中心となり、サテライトキャンパスにて開催した「感性フォーラム札幌2010」では、本学教員の発表に加え、「ビオトープに学ぶサステイナブルな都市と建築の緑化手法の提案と実践」といった演題を本州の企業関係者が発表しており、参加している本学教員と意見交換を行う場面を創出しているが、これも実を結ぶものとなるには、さらに、共同による研究、開発、実施といった段階を経る必要がある。他の事例をあげれば、サテライトキャンパスで開催した「プロジェクト打ち合わせ」を起点として、23年度に至って、「寿都町における高齢者見守りプロジェクト」として、企業との連携プロジェクトが契約締結の上進行している。このように、大学院を開設したばかりの1年度目に、「産学連携の実を示す」ことは不可能に近い。</p>	<p>【対応】</p> <p>・意見を踏まえ、下記のとおり修正する。 評価結果4ページ下から5行目</p> <p>○当初の年度計画の設定が適切ではなかった項目があること自体問題であるが、年度計画の変更という形で適切に処理されていない例があったことは、自己評価の目的から鑑みて大きな問題である。自己評価は、大学の教育研究等の質的向上を目指して実施するものであることを再認識されたい。</p> <p>【理由】</p> <p>・平成21年度の実績を評価したものではなく、平成22年度計画設定の不適切を指摘したものである。</p> <p>また、不適切な年度計画については、計画の変更により解消できたものである。更には、評価委員会からの指摘により判明したことは、大学法人の自己評価の精度にも問題がある。</p> <p>・自己評価の目的を追記する。</p> <p>・サテライトキャンパスについては、左記の説明を考慮しても年度計画にある活用の検討を十分に行ったとは判断できない。</p>

申立ての内容	申立てへの対応
<p>業務運営の改善及び効率化に関する項目</p> <p>【小項目 129 番関係】</p> <p>・学長裁量経費について、補てん的な執行のみとの評価をしているように見受けられるが、実績報告にもあるように、本学において重点的に取り組むべき事業である産学連携や国際交流関連経費に執行していることから、評価内容の再検討を求めるものである。</p> <p>なお、国際交流事業に関する経費については、当初予定された国際交流事業が先方の事情によりキャンセルされたことによる未執行が生じている。</p> <p>財務内容の改善の関する項目</p> <p>【小項目 160 番関係】</p> <p>・「年度計画にある『前年度の調査』が行われていなかったという事実が明らかになった」との指摘を受けたが、前年度の実績報告にて報告済みである。年度計画の文言の修正をしておらず不適切ではあったが、平成21年度の実績について、平成22年度の評価の対象とすることについては、再考することを検討いただきたい。</p> <p>【小項目161番関係】</p> <p>・当該項目は、「研究費等外部研究資金の獲得に努める」との中期目標を受けた、競争的資金獲得に向けた取り組みに関する計画であり、本学としては、科学研究費補助金及び大学生の就業力育成支援事業の獲得を全体としてⅣ評価としたものである。</p> <p>大学生の就業力育成支援事業の獲得に対するコメントとして、「全学を対象とした取り組みではない」という、計画の目的である外部研究資金の獲得とは別の観点から評価されていることから、評価内容の再検討を求めるものである。</p>	<p>【対応】</p> <p>・原案のとおりとする。</p> <p>【理由】</p> <p>・学長裁量経費の大半は、設備の更新に執行されている。</p> <p>また、学長自ら、補てん的な執行をしているとヒアリング時に説明をしていた。</p> <p>【対応】</p> <p>・原案のとおりとする。</p> <p>【理由】</p> <p>・前述のとおり。</p> <p>【対応】</p> <p>・原案のとおりとする。</p> <p>【理由】</p> <p>・就業力育成支援事業の獲得については、評価結果 4、12 ページで評価している。しかし、科学研究費補助金の申請増加に努める計画に対して、前年度並みであることから、Ⅲ評価とした。</p> <p>就業力育成支援は、全学の取り組みであるとの説明に対しての指摘は、「なお」書きであり、財務評価の対象とはしていない。事実と異なる説明であったため指摘したものであり、真摯に受け止めていただきたい。</p>